1 Pfizer

Questions	Answers
□ 算定を行う背景・目的	● 2010年においてGHGプロトコルのScope3 Standard開発時のロードテストに参加し、サプライチェーン排出量の算定を実施した。 ● ただし、ロードテストに先立ち、出張のカテゴリについては以前から算定を行っていた。ロードテストに用いた2009年のデータは推計によるものがほとんどであったが、2010年からはより正確なデータを収集するため、サプライヤーの調査も開始している。 ● Pfizerにとって、Scope3はScope1,2に比べて非常に大きなインパクトがあると考えており、その大きさをより正確に把握すること、どのように削減していくかの戦略を立てることを目的として算定を行っている。
□ 算定方法	● サプライヤーからデータを集めることも行っているが、金額ベースで排出原単位のデータベースを用いた算出も行っている。 ● 物流についてはGHGプロトコルのツールを活用している。
□ 社内の算定体制	● ENERGY & CLIMATE CHANGEチームによって算定が行われており、サプライヤーから集められたデータも、このチームで集計されている。
□ 算定結果の活用方法	● サプライヤーの評価や教育に活用している他、GHG排出量削減の戦略を周知することにも活用している。 ● CDPへの報告にも活用しているが、留意事項として、Scope3の算定はまだ初期段階であり、データが完全ではないということを注記している。
□ 算定のメリット	● Pfizerでは2008年以降サプライヤーに対して、GHGに関する情報も含めたEHS調査を実施しており、2012年には100程度の主なサプライヤーに対して調査を行った。 ● この調査結果から調達先の選択、サプライヤーへの教育、支援を行っている。 ● このような取組みにより、調達コストを下げることにもつながっている。

Pfizer

2

Questions	Answers
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	出張の削減、製品包装の削減、サプライヤーの教育など排出削減の機会を追求し、様々な取組を実施している。 これらの取組に関する目標を設定するためには、更なるデータレビューが必要となる。
□ サプライチェーン排出量算定の課題	サプライヤーに対して調査を行った際に、Scope3などに関心を持っていたり、CDPなどで慣れている大企業については非常に話が早く、データも集めやすかったが、そのような取組に関心の無い企業については質問そのものが理解されないという課題があった。 サプライヤーのレベルに合わせてデータの収集方法を変える必要がある。
□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ	まずは算定が容易なカテゴリから始めることが重要であると考えられるが、どのカテゴリが容易かは企業によって異なる。 例えば出張のカテゴリなどのように、既にあるデータで算定できる範囲から始めると良いのではないか。 カテゴリ全体を眺めた際に、どのカテゴリの情報はどこから入手できるのか、その精度はどの程度かを検討した上で、取組を始めることが重要である。

Pfizer Website
http://www.pfizer.com/files/responsibility/protecting_environment/Improving-Supplier-Competencies-Through-Training-and-Coaching.pdf